



教育指導課便り

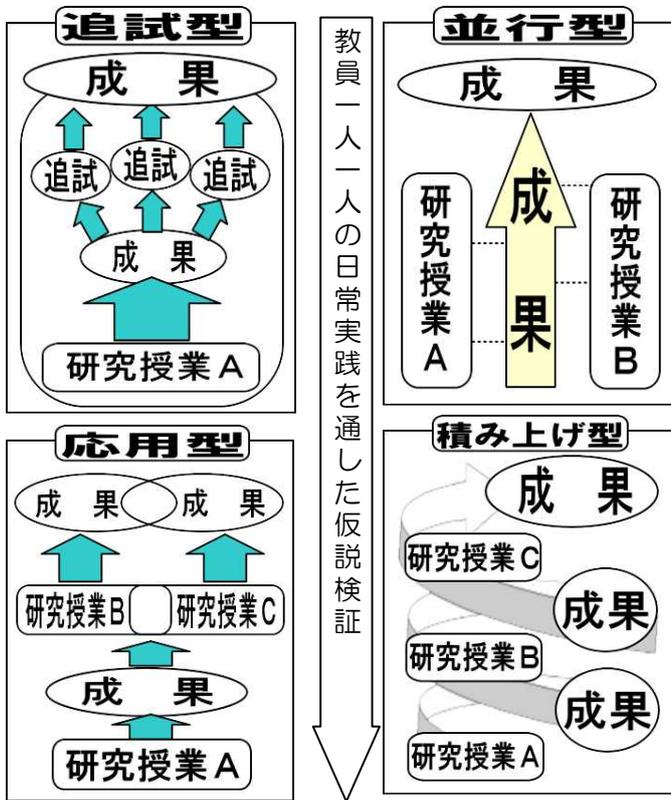
函館市教育委員会
学校教育指導課
平成23年9月21日発行
VOL.7

校内研修の充実に向けて

研究授業を見る・観る・診る・扱う

9月に入り、爽やかな風が吹き始め、市立幼稚園では先ごろ運動会が開催されました。各学校では、校内研修が進められ、多くの授業が公開される季節となりましたので、今回は「研究授業に向けてのポイント」をお知らせします。

研究授業を位置付けた仮説検証



平成17年度函館市学校教育指導資料より一部抜粋

研究授業に関して、「ハレ」の舞台（特別な授業）であり、普段の授業「ケ」とは違うという意識が強すぎると、イベント的になり、日常実践に結び付きにくいこともあります。日々の授業改善のためには、「隣のクラスの先生と授業を参観し合う」、「授業参観の際に保護者から感想をもらう」、「子どもによる授業評価を実施する」など少しずつ継続的に進める方法も考えられます。

ポイント1

研究授業は、研究仮説の検証のための授業として捉えることが大切です。左の図のように、この研究授業が、どのようにつながるのか、研究担当者が意図し、全ての教員で共通理解を図っていく必要があります。

ポイント2

研究授業は、研究の仮説の検証の場です。予め共通の「視点」をもって、参観に臨むことが大切です。また、協議は常に学校の共通の課題解決を図るという視点で進める必要があります。

第1回 校内授業研究会 授業観察カード

6年A組 授業者【 教諭 】

記入者

◇全ての項目でなくても結構です。
事後研の後、授業者の先生へお渡しください。

1 研究内容について

(1) 学習事項を明確にし既習事項を活用させる授業展開の工夫

(2) 基礎的・基本的事項の確実な定着を図るための工夫

(3) 自らの考えを自分の言葉で表現する言語活動の工夫

2 その他、授業で気がついたことがあれば、ご記入ください。

協議の視点を明らかにした取組の例
(平成23年度研究モデル校 磨光小学校)